

## 会 議 録

### 1 会議名

平成 30 年度第 8 回津有区地域協議会

### 2 協議事項（公開・非公開の別）

・自主的審議事項について（公開）

①交通手段

②若者の流出

### 3 開催日時

平成 30 年 12 月 20 日（木）午後 6 時 30 分から午後 8 時まで

### 4 開催場所

ファームセンター 農事研修室

### 5 傍聴人の数

なし

### 6 非公開の理由

なし

### 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：江平幸雄、太田政雄、塩坪貞雄（副会長）、清水昇一、服部香代子、  
古川昭作、保坂和彦、丸山常夫、吉崎則夫（会長）、渡部稔（欠席 4 人）

・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、野口係長、田中主事

### 8 発言の内容（要旨）

#### 【田中主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告

#### 【吉崎会長】

- ・挨拶

#### 【田中主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

## 【吉崎会長】

- ・会議録の確認者：塩坪副会長

次第3「議題（1）自主的審議事項について」に入る。前回の地域協議会は非常に出席委員数が少ない中で個別テーマについて協議し「交通手段」と「若者の流出」に決定した。本日の審議の進め方について、事務局より説明を求める。

## 【田中主事】

- ・資料1、資料2、参考資料集により説明

## 【吉崎会長】

前回の地域協議会で個別テーマを「交通手段」と「若者の流出」に決定し、その中で個別テーマに該当している人達がどのようなことを望んでいるのかを聞かなければ話は進まないとの意見があり、事務局にワークシートの作成を依頼した。本日は、個別テーマごとに分かれたワークシートを使い、項目を埋めていきたいと思う。最低限でも1テーマ分のワークシートは完成させたいと考えている。今ほどの事務局の説明に対して質問のある委員の発言を求める。

（発言なし）

協議に入る。「①交通手段」から協議していく。まずはワークシートの「No.1なぜ」についてである。必要性の部分から入って行きたい。基本的には順番に協議していきたいと考えてはいるが、所々順番が前後する部分があっても致し方がないと思っている。そのため順番には拘らずに自由に意見を出してほしい。

## 【江平委員】

前回の地域協議会でも意見が出ていたが、やはり医療機関に行くための手段を聞きたい。また、近頃は買い物難民と言われる人が町場でも多いと聞いているため、買い物に行くための手段についても聞きたい。すぐに思いつくものとしてはこの2つである。買い物や医療機関に行くための足がないことが問題であると思う。

## 【太田委員】

津有区にバス路線はあるが、バスが通っていない地域も多くある。バス停までの道が遠い集落も多くあり本当に大変だと思う。三和区のNPOで行っている取組の資料には、バス路線の近くに住む住民も多く利用していると記載されている。自分の住む地域は真っ直ぐに行けば中央病院に行けるため病院には行きやすいが、スーパー等には行きづらい。地域によってはバス路線とバス路線の間の集落もあり、本当に不便だと

思う。

**【江平委員】**

ファームセンターもそうである。バス停はあるにはあるが、高齢者が歩くには距離がある。年齢にもよるが高齢者が歩いてバス停まで行き、病院やスーパーに行くことは大変である。400メートルから500メートル歩かなければ、バス停に行けない住民は多くいると思う。ドアトゥードアであれば良いが、そこまでの面倒は見きれないということが現状としてあると思う。毎日天気が良いわけでもないため、手押し車で歩くことも大変である。

**【田中主事】**

ワークシートについて補足説明である。「No.1 なぜ」は個別テーマに関する地域の声を集めることについて、目的を定めるということである。ワークシートに記載している例として記載した「地域の現状とニーズを把握する」は、地域の声を集めるために行う理由である。

**【吉崎会長】**

先ほど江平委員と太田委員から出た意見は、どちらかと言えば質問内容に関係してくる内容であると思う。「No.1 なぜ」については、どうして聞かなければならないのかということである。

**【保坂委員】**

現状のままではこれだけ困っているだという声を拾っていくことだと思う。声を聞くことによって、想定していた以上もしくは以下という場合もあるかもしれない。どの程度日常的に困っており、上手く生活が出来ていない等を把握する必要がある。

**【吉崎会長】**

確かに地域協議会としては、たぶん困っているだろうと思いテーマに挙げたが、実際にはどのように思っているのかを聞くためのものということである。他に意見はあるか。

(発言なし)

では「No.1 なぜ」は保坂委員の意見にあった、困っていることを聞くがまさしくその通りであると思うため、これを内容として良いか。

(よしの声)

次に「No.2 なにを」に移る。質問内容で何を聞くのか、何に困っているのかを質問

するということである。どのような決め方をするのかについて意見を求める。

**【保坂委員】**

買い物や医療機関に行く時にどのような方法で行くのかであると思う。

**【吉崎会長】**

まさしく江平委員の発言の内容である。

**【保坂委員】**

何を使っていくのかということである。まさか徒歩の人はいないと思うが、例えばバスで行く住民もいれば、家族の送迎で行っている住民もいると思う。または自身の運転で行く住民もいると思う。それらの意見を聞いた中で、困っていることがあれば聞いてみてはどうか。

**【吉崎会長】**

新規の声を集めるためのものであるため、当初話に出ていたアンケートとは違い、質問事項はあまり多くせず、ピンポイントで聞きたいと思っている。そのため、多くても10問もあれば十分であると思う。

**【服部委員】**

今ほどの意見のように、病院や買い物、サロンの会場まで行けているのかを聞いてはどうか。さらに今の高齢者等がお茶のみをしているかは不明であり、もしかしたらお茶のみがサロンになっているかもしれないが、どの程度の頻度でどの程度の回数を行っているのかを聞いてみたい。コミュニケーションを取れる状態になっているのかを確認したい。

**【吉崎会長】**

例えばバス路線について、何か不満があるか聞くことも良いと思う。

**【塩坪副会長】**

10月か11月に市が吉岡、劔、下池部、上池部の町内会長を集めてバス路線についての話し合いをすることが予定されていた。何のために実施するのかの目的は不明である。意見したところでバスは通らないとの意見が出ており、何のために話し合いを行ったのかという話になった。事務局ではこの件について何か聞いているか。

**【本間センター長】**

まだ公表には至っていないが、バス路線の見直しだけでなく市全体の公共交通の計画について見直しを行っている。その中でバス路線をどうするかについて、13区とそれ

それぞれの地区に分けて調査していると聞いている。

**【塩坪副会長】**

現在、宮口線だけ見ても全く人が乗っていない。それを現在バス路線が走っていない地域にバス路線を通して人も乗るかは疑問である。変更してもバス路線を変えただけになってしまうのではないかと町内会長達との話の中では出ていた。

**【服部委員】**

自分の会社の前社長は車の免許証を持っていたが、毎日高田駅前から会社までバスで通っていた。乗ってくるバスはいつも2人程度しか乗車しておらず、自分が降りてしまうと誰もいなくなると話していた。

**【太田委員】**

運賃が高すぎるのが問題であると思う。それを考えると、三和区のNPOで行っている事業は料金が非常に安い。路線バスは料金が高いため、子供達もバスで定期券を購入して通学するくらいなら親が送迎したほうが安上がりということになってしまう。結局は、料金が高いため誰も乗らないということになっている。そのため、いかに安く巡回バスを運行できるのかが問題であり、非常に難しい所である。

**【古川委員】**

バスの場合は、運賃の問題と時間的な問題がネックになってくる。

**【服部委員】**

確かに、1時間から2時間に1本では使い勝手が悪い。

**【古川委員】**

時間が合わなければ、結局は家族や近所の人に頼んだ方が早いになってしまう。そのような時代であるため、バス路線の利用は非常に難しいと思う。しかし、難しいからでは何も解決できない問題である。例えば、バスを小型化し、少人数用の小さなバスに変更する等の考える余地はないものかと思っている。

**【太田委員】**

最近は小さなバスも走っているため、それらを求めるかを聞いてみてはどうか。また、バス路線や運賃についてどう思っているのか、行先は現在のままで良いと思うか等を聞いてみてはどうか。とにかく、乗らない原因を調べなければいけないと考える。実際にバスが走っていても誰も乗っていないことが問題である。

**【服部委員】**

バスに乗るためのステップ台が高いため、高齢になると乗り降りが大変だと思う。先日、聞いた話では、タクシーは車高が低いため乗り降りしやすいが、バスは車高が高く乗り降りしにくいと話していた。

【吉崎会長】

ノンステップバスもある。

【太田委員】

雪が降るとノンステップバスは難しい。

【吉崎会長】

バスに乗らない原因や理由はそういうところにもあると思う。

【丸山委員】

一番の問題は人がいないことであると思う。乗る人がいないため、バスが走っていても乗降者がいないということだと思う。また料金も巡回バスのように一律 200 円から 300 円程度である程度の場所まで走行してくれたら状況も変わると考える。やはり区間から区間では降りる際に高額な乗車料金も支払わなければならないため、上越市内のバスの問題点であると思う。

【太田委員】

結局は悪循環となっていると思う。乗車する人がいないため、結果的に料金が値上がりしている。料金が安ければ、学生も毎日の通学に使用すると思うが、現状では定期等は高くて買うことが出来ない。そうすると送迎したほうが安上がりということになってしまう。

【丸山委員】

現在、まだ外が暗い朝早い時間からバスが走っているが、ほとんど人は乗っていない。一番早い時間は朝 6 時ころである。

【太田委員】

以前は高校生が乗っていたが、現在は誰も乗っていない。

【丸山委員】

現在は一番の混雑時でも立っている人は全くいない。10 人乗車していればよい方であると思う。

【太田委員】

社会が変化していることも原因であるのかもしれない。最近では雄志中学校のほと

んどの生徒は家族等が送迎している。そのため、冬場は学校近辺の車の出入りが大変になっている。

**【丸山委員】**

そのために雄志中学校入口というバス停を作った。しかしバスを利用している生徒はいない。以前はバスを利用して通学する生徒もいたが、最近は全くいない。

**【太田委員】**

本当にどの生徒も家族の送迎で通学している。しかし、それは社会の情勢もあると思う。登下校中の子供達が狙われた事件も多くあるため、どこの家庭も送迎をしているのだと思う。最近は中学校や高校の子供がいる家族はみんなが送迎をしている。

**【吉崎会長】**

更に付け足すことなどの意見はあるか。

**【江平委員】**

先ほど話に出た、交通手段をどうしているのかはどうなったのか。

**【吉崎会長】**

現在、何を使って移動しているのかに付け足す。

**【服部委員】**

運転免許証を返納している人はどの程度いるのかも知りたい。免許証を返納することにより市から貰える補助金では足りないとは思いますが、津有区ではどの程度の人が返納しているのかを知りたい。

**【太田委員】**

免許証を返納したという話はあまり聞いたことがない。

**【服部委員】**

もし返納した人がいれば、現在どのような交通手段を使っているのかを聞いてみたい。

**【吉崎会長】**

確かに、返納した人はどの様に生活しているのかを知りたい。

**【塩坪副会長】**

今ほどの返納の話では、高齢者のみの世帯では高齢になってもなかなか返納はしないと考える。自分の亡くなった親も 89 歳で免許証を返納した。返納後はどこにも出かけなくなり、通院する際は自分たちが送迎していた。この様に、免許証を返納しても

送迎してくれる人が近くにいない場合は、ゆっくりとした運転でも自力で車を運転して行動しなければいけないと思う。認知症等になり強制的に返納された場合は別であるが、現状はこのような状況だと思う。

**【吉崎会長】**

質問内容としては、これまでに出了意見や内容として良いか。これまでに出了意見を上手く組み合わせて内容としてはどうか。

**【田中主事】**

この後の「No.3 だれに」や「No.4 どうやって」を協議していく中で、意見も増えることが考えられるため、最終的に出了意見の中から絞ることもできる。

**【保坂委員】**

今ほどの返納の話もそうであるが、高齢者が公共交通を利用した際に制度的に優遇される様な仕組みを知っているのかといった内容はどうか。免許証の返納に関する資料はあるが、他に高齢者が優遇される様な制度等はあるのか。

**【服部委員】**

参考資料に記載されている。

**【保坂委員】**

参考資料以外には何かあるのか。

**【太田委員】**

シニアパスポートを貰うとタクシーが1割引きになっていたこともある。

**【保坂委員】**

アンケートの結果で知らないとの回答が7割を超えていた場合、周知の仕方に問題があると考ええる。

**【吉崎会長】**

制度を知っているか、知っていた場合は制度を利用したいと思うかと聞いても良いと思う。さらにこのような制度があった場合、利用したいと思うかも良いと思う。

次に、「No.3 だれに」に移る。これについて意見を求める。

**【太田委員】**

中学生が良いと思う。あと高齢者に聞く場合、どこで聞くかが問題である。津有地区公民館でサロンを実施しているため、サロンで聞いてはどうかと考える。

**【塩坪副会長】**



ファームセンターのサロンはなくなってしまったと思う。

【吉崎会長】

では、高齢者は高齢者サロンとして良いか。

【太田委員】

あとはゲートボール場も良いと思う。ゲートボール場は利用者が多い。

【塩坪副会長】

しかし利用している住民は、津有南部だけではない。

【太田委員】

確かに利用者は色々な所から来ている。

【服部委員】

しかし、別の地区から出向いて利用している利用者は、来るための手段があるから来ているのだと思う。

【古川委員】

高齢者となると年齢の幅も関係してくる。

【服部委員】

確かに65歳以上とするのか、70歳以上とするのかが問題である。

【古川委員】

ゲートボール場に來れる人は良いが、來られない人が大事である。

【太田委員】

車の運転できない人は、誰かに送迎してもらっていると思う。

【塩坪副会長】

ゲートボール場までは乗せて來てもらえても、買い物等はどうしているのかということである。

【吉崎会長】

そのような内容を高齢者に質問したほうが良いと思う。

【保坂委員】

敬老会に集まった高齢者に一斉にアンケートを取ることも良いと思う。

【吉崎会長】

先ほども意見が出たが、高齢者だけではなく中学生にも聞いてはどうか。

【太田委員】

高齢者の交通手段のため、対象は高齢者で良いと思う。中学生はまた別の話になる。しかし、高齢者を何歳からにするのかが問題である。70歳か80歳か、65歳以上では若過ぎるように思う。

**【吉崎会長】**

特に年齢を決めずに来ている人に聞いてはどうか。  
他に意見はあるか。

**【服部委員】**

町内会長の仕事をこれ以上増やすわけにもいかないため、この位で良いと思う。町内会長達がある程度把握していれば、町内会長にアンケートを取る方法もある。色々な場に出向いて聞かなくても良いことになる。

**【太田委員】**

質問する際は委員が出向いて質問するのか。

**【吉崎会長】**

高齢者サロンであれば、公民館主事に頼むこともできるが、ゲートボール場は課題がある。

**【服部委員】**

聞くとすると大変であるが、周りで聞いた話を記入してもらっても良いと思う。聞いたことが無いのであれば、聞いていないと記入してもらえば良いと思う。

**【吉崎会長】**

「No.3 だれに」については以上の内容で良いか。  
(よしの声)

次に「No.4 どうやって」に移る。何か意見はあるか。

**【太田委員】**

その場に出向き依頼しても誰も記入してくれないように思う。出向いて話を聞いた中から記入してもらおう他ないように思う。

**【服部委員】**

高齢者サロンは取りまとめている人がいるため、聞いてもらい内容をまとめてもらうことは出来ると思う。

**【太田委員】**

ゲートボール場は誰か先頭に立っている人に依頼できれば話は早いと思う。その人

が了承してくれるかは問題ではあるが、先頭に立っているリーダーはいる。

**【吉崎会長】**

では、リーダーに依頼できれば良いと思う。なるべく記載しやすいものにしなければいけないと思う。

**【服部委員】**

○を付けるような様式が良いと思う。

**【保坂委員】**

「No.4 どうやって」は選択肢だと考える。下手に記載してもらおうような様式にしては記入してもらえないように思う。さらに選択する項目も3つ程度で用意しておく必要があると思う。

**【太田委員】**

簡単にした方が良いと思う。記入してほしいと言っても逆に難しくて無理だと思う。ゲートボール場についてはリーダーのような人に依頼することが一番良い方法であると思う。この後の「No.5 いつ」や「No.6 どこで」で関連してしまうが、委員が出向くよりも早いと思う。

**【吉崎会長】**

ゲートボールは平日に行っているのか。

**【太田委員】**

そうである。ゲートボールをしている人はけっこう多くいる。

**【吉崎会長】**

しかし冬期間は行わないのではないか。

**【太田委員】**

屋内なのでオールシーズンやっており、シーズンオフはない。ゲートボール場の利用率は非常に高く、上越市の施設の中でも高い利用率であると思う。

**【吉崎会長】**

ではゲートボール場に関しては、リーダーのような人をお願いしたいと思う。

**【太田委員】**

高齢者サロンは公民館主事に頼んで、高齢者サロンを取り仕切っている人に依頼してもらってはどうか。敬老会については秋に終わったばかりであり、近い間には実施はないと思う。

**【服部委員】**

敬老会は1年に1回であるため限られる。

**【塩坪副会長】**

北部地区は7月の開催である。

**【太田委員】**

7月から10月頃で全ての地域が終わってしまう。

**【吉崎会長】**

最近は月に1回程度集まって何かする様な機会はないような気がする。では、高齢者サロンについては公民館主事に依頼し、ゲートボール場についてはリーダーに依頼するとして良いか。

(よしの声)

そうすると「No.5 いつ」もだいたい決まってくるように思う。ゲートボールや高齢者サロンの実施日となる。なるべく早めに内容を決定し、聞ける形にしたいと思う。

**【塩坪副会長】**

ゲートボール場については三郷区の住民も利用しているが、津有区の住民を絞ったほうが良いと思う。

**【太田委員】**

様々な地区から来て利用している。

**【吉崎会長】**

他の地区の住民も多く来ているものなのか。

**【塩坪副会長】**

日や曜日によって決まっている様である。

**【吉崎会長】**

しかし回答してもら分には、津有区以外の住民でも良いように思う。

**【太田委員】**

高齢者に聞くのであれば良いかもしれない。

**【吉崎会長】**

だがメインは津有区であるため、出来るだけ津有区の住民が多く利用している日に聞けることがベストと考える。

**【田中主事】**

利用者を管理している人がいると思うため確認する。

**【吉崎会長】**

以上でほぼすべての区分が決まったと思う。今回決まった内容が次の地域協議会までに上がってくれば協議が進むと考える。

**【田中主事】**

次回の協議会までには、アンケート内容のたたき台を作成できると思う。

**【吉崎会長】**

先ほど話が出たように、内容を3択方式等の簡易なものにする方向で話を詰めていきたいと考えている。

**【塩坪副会長】**

アンケートを取った後が問題である。アンケートを取り、その後どうするのかと聞かれた場合、決まっていけないでは問題である。本間センター長の話にあったように交通政策を見直すのであれば、見直しを実施する担当課にデータを提示し活用してもらうことも方法である。

**【吉崎会長】**

自主的審議も再来年の2月頃までには何かしらの結果を出さなくてはならない。

時間となったため、「交通手段」については以上の内容で決定する。

次に「②若者の流出」について協議を行う。同じくワークシートに沿って協議していく。まずは「No.1 なぜ」である。事務局から出ている例としては、地域の現状とニーズを把握する、若者の考え方への理解を深めるとある。他に意見はあるか。

(発言なし)

「No.1 なぜ」は難しいように思うため、「No.2 なにを」を先に決めたほうが良いと思う。先ほどと同様、内容については前後することが考えられるため、内容にこだわらず意見を出してほしい。

**【塩坪副会長】**

参考資料①の基礎データを見ると、人口が増加している地区は金谷区、和田区、春日区、有田区であり、他のほとんどの地区は人口が減少している。上越市全体で人口が増加しているのであれば、他の地区の住民をどうしたら津有区に呼び込めるのかを検討できるが、市内全体が減っているためどうすれば津有区に定住してくれる住民を増やせるのかは難しい問題である。以前に富岡に団地ができ、地区人口が増加した際

は、なぜ南部には流れてこないのかという話があった。しかし、現状では市内全体の人口が減少しているため本当に難しい問題である。

**【吉崎会長】**

今ほどの塩坪副会長の意見は、外部から津有区に定住してくれる人といった話である。そのような考え方もあるが、例えば現在地元にいる若者はどうしたら残ってくれるのかという考え方もある。

**【塩坪副会長】**

どちらにせよ、昔から就職の話になってしまう。就職先があり、どこかの地区の人口が目に見えて増えているのであれば別である。しかしそのような地区はない。

**【吉崎会長】**

それらも含めて、若者がどのように考えているのかを聞いてみてはどうか。

**【服部委員】**

今年の夏に中学生のワークショップを実施した際、大学等で外に出ても上越市に戻りたいという生徒がいた。しかし、それは中学生の時の考えである。進学し就職先を決める際、希望する職種の就職先が上越市内にあるかどうかが問題となって来るように思う。誰を対象に聞くのかも難しい問題である。高校生に聞いても、ほとんどの生徒が進学すると思うが、その生徒達が果たして本当に戻って来るのかは分からない。

**【太田委員】**

中学生のワークショップを実施した際に、中学生は地元が良いと言っていたが先のことは分からない。上越市全体の人口が増えていないということは、結局は就職先がなく結果的に帰ってこれないことが問題であると思う。そうなると地区の問題ではなく市の問題になってくる。対象を誰にするかが本当に難しく、中学生に聞いてもあまり意味がないことになってしまう。

**【吉崎会長】**

中学生ではまだ現実味がないということになってしまう。

**【服部委員】**

昔のように、長男や長女は必ず地元に戻ってくるという感覚も無くなっているように思う。それを聞いてみるのも1つの手段ではある。

**【江平委員】**

いくつかある質問の中の1つとして、この地区の好きな所はどんな所か、またそれ

はなぜか。また、嫌いな所はどんな所か、それはなぜかと聞いてみてはどうか。その回答の1つとして、将来的に見た時に就職先がないためとの回答もあるかもしれない。

【吉崎会長】

それを質問する対象はだれか。

【江平委員】

対象が難しい。

【古川委員】

成人式がどの程度の出席率かは不明であるが、成人を迎えた20歳の人を対象に聞いてはどうかと考える。帰ってくる気持ちがあるのかを確認してはどうか。

【服部委員】

現実的にはほとんどの若者が帰って来ない。

【田中主事】

成人式は4月の第1週にあり、出席率は約7割程度である。

【太田委員】

成人式は各中学校別に集まるため、雄志中学校の人には聞きやすいように思う。

【吉崎会長】

しかし、4月まで聞くことが出来ない。

【太田委員】

成人式は良いと思う。実際に県外に出ている人の意見も聞くことが出来る。

【吉崎会長】

成人式が1月であればタイミングが良かったが。

【太田委員】

成人式がダメであれば、地区内にいる高校生に直接アンケートを取っても良いと思う。津有区内の高校生であれば、人数的にはそんなにはいないと思うため数が限られてしまうと思う。それであれば、各町内会長に依頼して高校生がいる世帯にアンケートを取ることも出来る。

【吉崎会長】

対象は高校生位としてはどうか。また江平委員の意見にあったどんな所が好きかと質問するにしても、もう少し具体的な内容の方が良いように思う。

【清水委員】

高校生の場合、大学等に進学した生徒はまだ帰って来るかは分からないと思うが、就職先がある場合に帰って来たいか。また、帰ってきたいとした場合は、どんな所に魅力があり帰ってきたいと考えるのかを聞いても良いと考える。

**【吉崎会長】**

逆にどんな魅力がないため離れてしまうのかも知りたい。

**【塩坪副会長】**

就職以外の部分での理由が知りたい。例えば、雪が降るから、交通手段がないからといった意見もあると思う。

**【吉崎会長】**

高校生であっても1年生ではなく、2年生や3年生の進路が明確になってきた生徒を対象にした方が良いと思う。

**【田中主事】**

高校生や専門学校の内定時期は、8月から9月に試験があり11月頃にはだいたい決まっていると思う。また大学を受験等する生徒については2月頃までかかる場合もある。

**【吉崎会長】**

新潟県内に1万9千人の高校卒業者がいても、半分以上は大学や短大に進学してしまう。全体の4分の1が専門学校に進学、4分の1弱が就職となっている。

**【丸山委員】**

高校生もしくは20歳以下の子供達に聞いてみるということで、大きな企業に依頼し調査する方法もあると思う。20歳以下で就職している人もいると思うが、周りを見た時に市内のスーパー等を見ても若い店員は現実的にはほとんどいない。年配や主婦層が多いように感じる。自分たちの見えない所に若者が多い職場があると思う。そのような職場でも色々な意見を聞かせてもらえれば参考になると思う。高校生ばかりをターゲットにするのではなく、その様な人達の意見も聞けたら良いと考えている。

**【吉崎会長】**

上越市内で就職している人をターゲットするということか。

**【丸山委員】**

そうである。20歳以下の進学せずに就職や市内で進学した人ということである。

**【保坂委員】**



外国人労働者がかなり入ってきているために、就職が困難との話は出てはいないのか。

**【田中主事】**

現在、すぐに答えられる回答や資料は持ち合わせていない。

**【吉崎会長】**

市内の工場等にもかなりの数の外国人労働者が入っていると聞いている。またそのような企業は20歳以下の従業員も多く、今年度もかなりの人数を募集したが希望者が集まらず定員に満たなかったと聞いている。

**【保坂委員】**

国によっては現地で人材を養成している所もあると思う。しかし永住となるとハードルが高くなってしまうため、おそらく研修制度等で市内の工場等に来ているのだと思う。参考資料の中で津有区は、外国からの転入者の数がプラスになっていた。転入者が77人、転出者が65人でプラスマイナスではプラスになっている。市でも外国から来た人達の子供を就学させるにあたり義務教育段階であっても、例えば小学6年生だと12歳だが年齢の枠を緩やかにしている。他の例えとしても14歳15歳の子供であっても、中学1年生に編入させる等の対応をしている。来年度は更にそのような子供達が増加するとの情報もある。当然、その親も転入してくるということである。

**【吉崎会長】**

先ほど丸山委員の意見にあった20歳以下の従業員が多くいる企業については、質問できる企業があると思っており、若者を多く採用している企業もある様だが、企業が承諾してくれるかは分からない。ただ市から依頼すれば協力してくれるのではないかと考えている。

「No.3 だれに」については、高校生と20歳以下の従業員が多くいる企業を選択肢としたい。企業については津有区以外の人意見も聞く形にはなってしまうが仕方ないと思う。

**【太田委員】**

1番聞きやすいのは官庁であると思う。市役所ばかりではなく、消防署等にも多くの若者がいる。その他関連の所は多くある。

**【丸山委員】**

範囲をどこまでにするかが問題である。津有区だけであれば津有区だけで高校生と

するのかということである。しかし高校生といっても、自分の町内には39戸あるが高校生は3人から4人しかいない。

【太田委員】

自分の町内にも3人から4人ほど高校生がいる。

【吉崎会長】

津有区外の意見も取り入れるのか、または津有区のみを対象とするかで質問内容も変わってくると思う。

【太田委員】

今回協議している内容は、津有区の現状に対して若者がどのように考えているのかということである。市全体からアンケートを取った場合、枠が広がり過ぎてしまい違うものになってしまうように思う。

【吉崎会長】

では、津有区の高中生としてはどうか。

【太田委員】

それであれば、町内会長に依頼してはどうか。町内会長はどこの家に子供がいる、といったことを把握している。

【吉崎会長】

では町内会長協議会を経由し、依頼してはどうか。

【太田委員】

町内会長に確認し、町内に何人の高校生がいるかを確認すれば良いと思う。

【吉崎会長】

では対象は、津有区に在住する高校生もしくは20歳以下の若者として良いか。

(よしの声)

そうなる質問内容は更に絞ったものになると思う。先ほど意見にあった津有区の好きな所や嫌いな所も当然入って来ると思うが、他に聞きたいことはあるか。高校生であれば、なぜ県外に出てしまうのかはどうか。

【太田委員】

進路が就職もしくは進学なのかをまず確認したほうが良いと考える。

【吉崎会長】

進路を確認した上で、地元を離れてしまう若者には、なぜ地元に残らないのか、ど

うということがあれば地元に残れるのかを質問してはどうか。他に意見はあるか。

**【服部委員】**

戻って来ない理由を聞いても就職先がないからと言われてしまうように思う。

**【太田委員】**

簡単に多くの就職先があった場合、残るかではどうか。

**【吉崎会長】**

進学先があった場合、地元に残るかでも良いと思う。大学や専門学校等の進学先が地元にあった場合、地元に残って進学するのかということである。

**【太田委員】**

反対の考え方である。質問内容としてはその位と考える。

**【吉崎会長】**

「No.4 どうやって」、「No.5 いつ」、「No.6 どこで」については、町内会長を通じての実施であれば、全て決まってくるように思う。「No.5 いつ」については地域協議会での準備が整い次第になる。質問内容や文言を決めることは難しいとは思っている。

**【田中主事】**

先ほどの「高齢者の交通手段」と同様に、たたき台を作成し、実施前に一度、地域委員に内容を確認してもらい、内容を確定するための協議をお願いしたい。

**【吉崎会長】**

イメージが湧きにくいと思うため、一度まとめた上で内容を決定したい。

**【吉崎会長】**

質問内容がある程度まとまりアンケートを実施できれば、自ずと答えが見えてくると思う。その結果を受け、津有区地域協議会として何が出来るのかを考えて行くしかないと考えている。

以上で2つの項目のワークシートが作成出来た。

**【太田委員】**

事務局に確認である。上越市全体の地域協議会の中でも少子高齢化について、協議している協議会が多くあると聞いた。少子高齢化をテーマとしている地域協議会がどの程度あるのか教えて欲しい。

**【田中主事】**

現在、すぐに答えられる回答や資料は持ち合わせていないが、昨年度に全区の自主

的審議事項のテーマ一覧表を配布しているため、その資料で確認してほしい。また、上越市のホームページにも全地域協議会の自主的審議事項や議事録が掲載されている。

**【吉崎会長】**

昨日、政府の話で東京一極集中を解消するために地方に人を増やすとして、新潟県内では新潟市、長岡市、上越市の3市が選ばれたとのニュースを見た。それについて、今後の地域協議会内で詳細等の説明はあるのか。

**【本間センター長】**

中枢中核都市のことと思われる。

**【太田委員】**

それは国から予算を受けるということか。

**【本間センター長】**

交付金の様なものがあるとの話ではあるが、詳細は不明である。

**【太田委員】**

一極集中を分散させるために、中核都市に補助金を交付して地方に人口を増やす為の計画である。

**【吉崎会長】**

その補助金を利用して、上越市ではどのようなことを行うつもりなのかを知りたい。

**【野口係長】**

まだ制度が決定したばかりであり、今後の話であると考えている。

**【吉崎会長】**

詳細が分かり次第、説明をお願いしたい。

以上で次第3「議題（1）自主的審議事項について」を終了する。

次に、次第4「その他」、「次回の開催日について」に入る。

— 日程調整 —

- ・ 次回の協議会：1月23日（水）午後6時30分から 津有地区公民館
- ・ 内容：地域活動支援事業の見直し等

その他、事務局より何かあるか。

**【田中主事】**

先般の地域協議会にて協議した雄志中学校区地域協議会との意見交換会について、高士区と諏訪区に開催の意向を確認したところ、開催を希望するとの確認が取れた。

各区のスケジュールを踏まえ、日程を調整し、改めて報告したいと思う。

**【吉崎会長】**

他に何かあるか。

(発言なし)

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690 (直通)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。